

## EUIJ-放送大学共催シンポジウム

### 「21世紀のEU - 拡大の光と影」

2007年8月4日、一橋大学マーキュリータワーにて、「21世紀のEU-拡大の光と影」と題してEUIJ-放送大学共催シンポジウムが開催された。このシンポジウムにはEUIJ四大学の学生だけでなく一般市民からも合計約70名が参加し、5人の講師の講演の後、講演者の一部によるラウンドテーブルが開催された。

講演に先立って、司会の山内EUIJ所長が挨拶を行い、ついでボッコロニ大学のパスサレーリ教授が基調講演を行った。この基調講演はEU憲法条約の内容を概観した後、憲法条約に代えて欧州理事会が2007年6月に合意に達した改革条約が、ヨーロッパ連合が陥っている「民主主義の赤字」を軽減するものであることを指摘した。午後のセッションでは、まず柏倉教授（放送大学）が、ジャーナリストとして現場で知見したエピソードを踏まえつつ、ヨーロッパ統合が独仏といった大国の主導によって進められてきたことを強調した。ついで小川教授（一橋大学）は、ユーロ導入のためには各国が厳しい基準を遵守しなければならない反面、投資拡大などにおいてユーロ導入が各国にとって大きな利点を持つことを解説した。中西准教授（専修大学）はEU拡大について講演し、EUへの加盟条件は極めて厳しいものだが、それゆえにEUは拡大しても安定が保たれることを指摘した。最後に、植田教授（国際基督教大学）が東方拡大および新改革条約との関連でEUの共通外交安全保障政策（CFSP）について論じ、加盟国の未来志向の精神が戦争と征服の歴史を超克し、統合を進める上で非常に重要であることを指摘した。最後のセッションは、山内教授（一橋大学）の司会の下ラウンドテーブル形式で行われ、小川教授・中西准教授・植田教授がEU統合と日本の関わり合いについて議論を行った。

各講演とラウンドテーブルの後には講師に対して会場からの多くの質問が相次ぎ、シンポジウム全体を非常に意義深いものとした。このことは日本の一般市民の間でもEUが大きな関心を持って注目もされており、近代国民国家体系を超えるヨーロッパ統合が強い意義をもって理解されていることを改めて示したといえる。